

3月 ホームページ
着物 こうづき 検索
 〒673-1431 加東市社349-1 (ポパル江社店前)
 TEL 0795-42-0359 (代) FAX 0795-40-2172
 営業時間 AM9:30~PM7:00 定休 水曜日

一枚で正統派にも冒険派にも。遊び心に花が咲く

コーディネートのお楽しみ



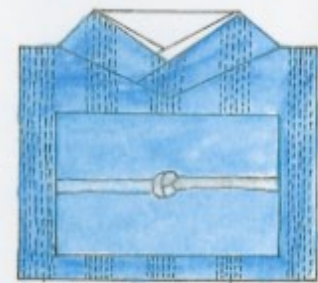
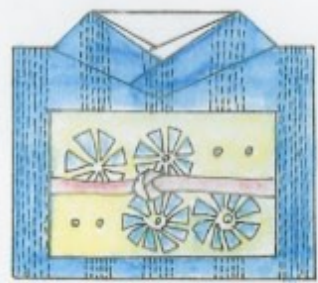
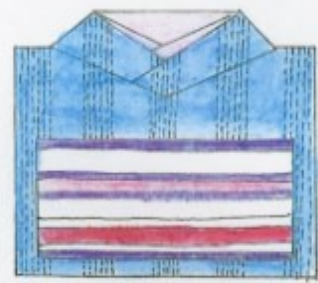
無地系着物の場合

無地系のきものは、淡い色味の反物より比較的きちんと感のある印象に。細い縞柄やみじん格子、無地場の細かい細かなドット柄なども、無地系と考えるといいでしょう。いすれにしても帯は帯を合わせることで印象が大きく変わります。まずは帯でカシアルダウンさせるのアップさせるのを考えて、その帯を主役として小物を選んでいくと合わせやすいです。無地系のきものは、地味にふりがちるので、帯には動きのある柄や、カラフルな色合いのものを選んで着こなしを楽しみましょう。

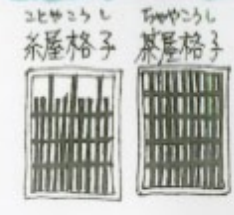


縞系着物の場合

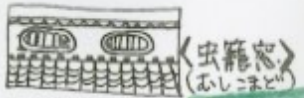
コーディネートの幅を広げるには、民芸調の柄や大柄のものは避けてほうがベター。色柄の半衿や足袋は着物の柄行を考えた、柄がシンプルより、比較的着まわしやすく、さらにワントーン色を抑えたものなら、着るシーンも広がります。



ちょっと知ってもっと楽しもう 町家豆知識



〈格子〉
 格子は中からは外の様子がわかり、外からは目隠しにできるという機能的なもので、その種類やデザインは職業などによって異なる。「糸屋格子」は格子の上部を切り止めることで光を多く取り入れ、着物の柄柄などがよく見えるようにしたもので、「茶屋格子」は中が目えにくい。



〈虫籠窓〉
 京町家特有の低い二階(厨子=階)にある塗り壁の窓のこと。その姿形が虫籠に見えるため、この名が付けられたというが、通説。二階の通風や採光のために設けられたもの。

3月... tokidoki kimono...

艶やかな桃の花が、一ツ二ツと咲き始める頃です。昔は花が咲くことを「笑む」「笑う」と表現していました。美しい笑みを「花が咲いてよく笑う」と言いますが、「咲く」と「笑う」は、見る者の心に似てよくは感慨を思い起こさせるのかもしれませんが。

梅・桃・桜と並び称されるように、桃は春の花の筆頭格です。枝に沿って複数の花をつけるため、子孫繁栄の象徴とされてきました。

春のモチーフをコーディネートにとり入れ、3月のキモライフを楽しみましょう。

式典のきもの

子供の卒業式や入学式に付き添う母親、子供の成長を祝う節目節目の行事には、母親もぜひきもの姿で祝ってあげてほしいものです。こうした式典では、子供が主役なので、母親はあまり華美にはならないように気をつけて。上品で控えめな付け下げや色無地、小紋などをおすすめします。付け下げは柄が少なく、色無地も柄がありません。その分、地色は濃い地肌薄地の明るいものを、帯は格のある古典文様の袋帯か名古屋帯を合わせて、晴やかな美持ちを表現しましょう。

＝玄侑さんに教わる季節の禅話＝

3月 桃花春風に笑む
 もともと唐詩の一節。桃の花が春風に揺られて、笑っているように咲きほころぶ様子を表現している。中国では古来、桃は無垢な生命力を象徴してきた。禅では、桃は人間本来の無邪気な生命力を象徴する。私たちに本来具わっている清らかな心が花開いた状態が「笑う桃」なのである。それを偲ぶ春風を感じられるかどうかは自分次第。

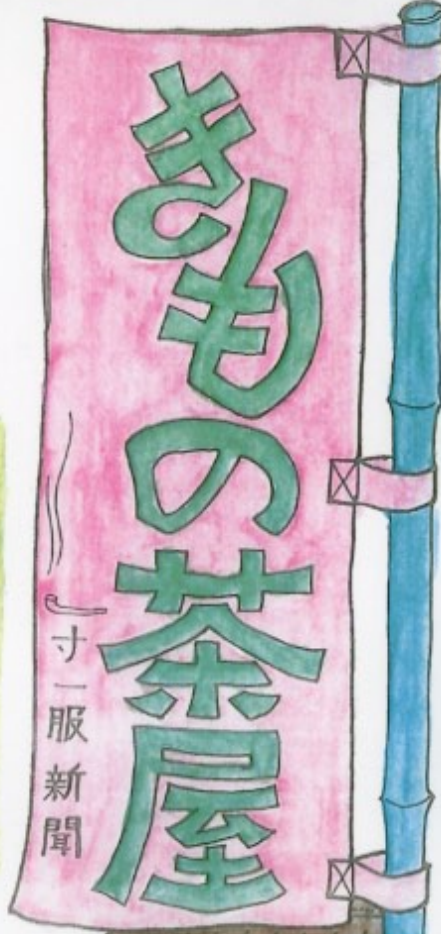
縁起の良い和のモチーフ

富と繁栄の象徴 福良雀 雀が寒さを防ぐために羽を膨らませ、地を暖かく保つかわいらしく見えます。寒さに耐える姿から強い生命力を感じさせるため「富と繁栄の象徴」の縁起のいいモチーフです。風を渡る鳥の意匠は、運賃の繁栄するという意味で。	豊作の象徴 雪輪 雪が降りるとその年は豊作になるといわれているため、雪輪は豊作の象徴とされる大変縁起のいいモチーフです。古代の人々は雪の結晶模様を人工のあまのこころ、風を渡る鳥の意匠は、運賃の繁栄という	富の象徴 金魚 古来中国では、金魚のことを「キンケウ」と呼び、「お金が余る」という意味があり、裕福・富の象徴として大変縁起のいいものとされています。さらに野と水、流水のモチーフは組み合わせると、利が果たります。
---	---	---

～町家でランチ～
 四季折々の素材による上品な和食、伏見ならではの華やかなお酒も是非
 11:00～15:00 (LO/14:30)
 17:00～22:00 (LO/21:30)
 金・土曜～23:00 (LO/22:30)

伏見桃山 京町おくと十二屋
 075-612-7666
 京都市伏見区京町3丁目182
 無休・完全個室有・P無
 時間により禁煙(11:00～15:00)
〈ランチ〉
 多彩な料理を少しずつ楽しめる十二屋小町2100円。見た目も美しく特に女性に人気。

江戸時代末期に建てられ、住宅として使われ続けられてきたというところ。梁や柱、坪庭などに往時の面影が残るゆとりある店内で、季節の料理を楽しめる和食店として親しまれている。名物の自家製くらわんか豆餡は、袖子、昆布、抹茶とう種の塩からのお好みで。月桂冠の季節のお酒や、限定酒を楽しむのも嬉しい。夜は月替わりの京町会席4000円がメイン。小さい子ども連れの利用も歓迎している。



第 拾 号

3月のこうづき
 日頃のご愛顧に感謝を込めて
春の大感謝祭
 20日(金)～23日(日)
 魅惑の染帯 特集!!

2015 弥生 March